

令和4年度

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

高浦中学校
「学力向上実行プラン」

- 授業目標の明確化と問題解決過程の重視
- GIGAスクール構想の積極的活用による、ICTを利用した授業展開
- 「家庭学習の手引き」「自主学習ノート」を活用した、家庭学習の充実

- 学力向上推進員
- 委員 校長 立岩一彰 教頭 石丸千代
 - 教諭・教務主任 後藤真治
 - 教諭・第3学年主任 平田明美
 - 教諭・第1学年主任 本田隆史
 - 教諭・第2学年主任 板橋 典子
 - 教諭・特別支援コーディネーター 橋本宏治

校長

立岩 一彰



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

授業公開や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な内容について定着している生徒が多い。落ち着いた態度で与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができる。 ●定着が十分でない生徒に対して、反復学習の定着を図り、個別指導の充実が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・習得した知識が、既習の知識と関連づけられ、他の学習の場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英(1年)で T.T指導を展開し、定着が不十分な生徒の個別指導を充実する。 ・基本的な内容が復習できるプリント・ワーク等を課題とし、小テストを随時行う。 ・活動ごとや単元ごとに、ノート等の精度を確認する。 ・“MetaMoji”等を活用して、反復学習ができるようなプリント配布を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科で、様々な文章を読む機会を積極的に設定する。 ・数学科で、計算問題の反復練習の機会を多く設定し、計算力の向上をはかる。 ・ICT活用の機会をさらに多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における「知識・技能」の観点でAまたはB評価の生徒の割合は、約93%だった。 ・小テストの実施やプリント・ワークの課題はほとんどの教科で行っている。 	<p>小テストや定期テストの結果から、基礎基本的な内容については多くの生徒に定着を図ることができたと思われる。しかし、学力に個人差があるため、引き続き苦手意識のある生徒に対しての個別指導を充実させる必要がある。その対策として ICT を活用して反復学習のためのタブレットを使用した教科もあり、さらに各教科で工夫改善をしたい。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを工夫したり、配慮しながらペア学習・班活動を取り入れた授業を展開した結果、表現活動を楽しみ、自分なりに工夫する姿が見られる。 ●自分の考えや気持ちを文章では表現できるが、積極的に発言する生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に至る過程を表現することができる。 ・さまざまな事象を関連づけたり、学習した内容を組み合わせることで考えを深めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標を明確化するとともに、授業の流れが分かる板書・ワークシートを工夫する。 ・従来型のアウトプットの場面を多く設定するとともに、タブレットを効果的に活用し、一人一人が意見や考えを表現する機会を作る。 ・キャリア教育の充実を図り、様々な体験活動を通して表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科で、意見と根拠をつなぐ事実を話し合うなど、工夫して考える姿勢が身に付けられる課題に取り組ませる。 ・数学科で、仮定から結論に至る道筋を明らかにできるようにタブレットの効果的な活用をはかる。 ・理科で、結果を予想したり、計画が妥当だったかを検討する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科における「思考力・判断力・表現力」の観点でAまたはB評価の生徒の割合は、約91%だった。 ・ペア学習、班活動を取り入れ表現の機会を増やす取組は5割程度できた。 	<p>各教科や様々な学校行事において、表現の場が設けられており、生徒たちも意欲的に取り組むことができている。引き続き、すべての教育活動での表現の充実をめざし取り組みたい。さらなるタブレットの積極的活用をはかりたい。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○課題等の提出率は高い。また、定期テスト前の学習にも、多くの生徒が目標を掲げ、意欲的に取り組んでいる。 ●自ら課題を見つけ、自分なりの目標をもって学習に取り組むことが苦手な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」を活用し、授業で学んだことを自分のものとするために必要な家庭学習ができる。 ・ある事象に対し、自ら疑問を抱き、その疑問に対して、自ら調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに家庭学習充実月間を設け、「自主学習コンテスト」を行い、家庭学習の質の充実を図る。 ・休日にタブレットを持ち帰らせ、「タブレットドリル」を用いて自らの理解度に応じた問題を選択して取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習コンテストの結果から、優秀な作品を掲示し、今後の自主学習の参考となるようにする。 ・長期休業中もタブレットを持ち帰らせ、「タブレットドリル」や課題の提出に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『自主学習ノート』や課題の提出率は、約88%であった。 ・長期休業中のタブレット持ち帰りは全学年で行った。 	<p>多くの生徒が家庭学習の習慣が定着しており、与えられた課題に対しては真面目に取り組むことができている。タブレットの活用により、長期休暇に限らずいつでも課題の提出や進捗状況を把握できるようにすることが、家庭学習の充実につながると考えられる。</p>

令和4年度 学力向上ロードマップ

